基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

理数系の科目に興味を持ち，ものづくりに関心があり，工学に対する勉学意欲と適性を持った学生の受け入れのために，本校では準学士課程（本科１年入学生，本科４年編入学生）および専攻科課程のアドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料４－１－①－１～３）。アドミッション・ポリシーおよび入学者選抜方針は，要点を箇条書きにし，かつ，平易な表現にし，中学生にも理解しやすくしている。

アドミッション・ポリシーはホームページで公表しているほか，入学者募集要項，編入学生募集要項，専攻科学生募集要項，学校要覧，学校案内（中学生の皆さんへ），学生便覧等の冊子にも記載している。教職員には，アドミッション・ポリシーを掲載した各募集要項，学校要覧，学校案内，学生便覧等の配布，中学校訪問をする教職員に対する説明会等により周知を図っている（資料４－１－①－４，５）。

アドミッション・ポリシーの本校教職員への周知の状況を，アンケートにより確認した。その結果，常勤の教員の認識率は80％であり，その内65%以上が内容をほぼ理解していると回答し，非常勤講師での認識率は94％であり，その内65%以上が内容をほぼ理解していると回答している。また，常勤職員では認識率は70％であり，その内45%が内容をほぼ理解しているといえる。これらの結果より教職員の約８割が「分かる」と回答していることから，周知されている（資料４－１－①－６）。

準学士課程への入学者選抜

アドミッション・ポリシーは，入学者募集要項（資料４－１－①－１），編入学生募集要項（資料４－１－①－２），学校要覧（資料４－１－①－５），学校案内（中学生の皆さんへ），そして本校ホームページへ（資料４－１－①－４）の掲載により，広く社会に公表している。入学者募集要項，学校要覧，学校案内は秋田県内の全中学校に，編入学生募集要項は秋田県内の全高等学校に配布している。また，本校教員が関わる小中学生向けのイベントにて学校案内を配布するなど，特に将来の学生に対するアドミッション・ポリシーの周知に努めている。特に，県内中学校２，３年生全員にアドミッション・ポリシー等が記載されたリーフレット等を配布している。

秋田県内の中学校に対しては，中学校訪問による学校紹介ならびに中学校主催の学校説明会における学校紹介を行っている。中学校訪問では，校長ならびに全教員が中学校を訪問し，高専の教育システムの特色をはじめ，学校生活，編入学制度，卒業後の進路，学生寮などの説明を行うとともに，入学者に求める学生像および入学者選抜方法等の周知を行っている。平成 25 年度は，延べ 104 校の中学校への訪問を実施した（資料４－１－①－７）。また，中学校主催の学校説明会では，生徒ならびに保護者に対して学校紹介を行うとともに，アドミッション・ポリシーの周知を行っている。平成 25 年度は，８校の中学校にて学校紹介を行った（資料４－１－①－８）。

さらに，中学校の生徒，保護者，教員に向けた本校主催の進学説明会ならびに学校説明会を毎

年９～11 月に，本校ならびに秋田市内，横手市内，そして大館市内で開催し，学校紹介を行うとともにアドミッション・ポリシーの周知を行っている。本校で開催する中学校教員を対象とした学校説明会では，中学校の進路指導の教員に対して高専の教育システムの特色，学校生活などの説明，本校の教育研究設備の見学会を行った後，意見交換会を実施している。平成 25 年度は県内 30 校の中学校から参加があった（資料４－１－①－９）。また，中学校の生徒およびその保護者を対象とした進学説明会は，秋田市内だけでなく県南の横手市内，県北の大館市内で開催しており，平成 25 年度は３会場合計で 45 名の参加があった（資料４－１－①－10）。

それ以外に，９～10 月に中学校の生徒およびその保護者に向けたキャンパスツアーならびに一日体験入学を開催し，本校の教育研究施設および実験・実習設備を見学，体験してもらうとともにアドミッション・ポリシーの説明を行っている。キャンパスツアーでは，平成 25 年度は 25 校の中学校から 41 名の参加があった（資料４－１－①－11）。また，１日体験入学では，生徒の付き添いとして中学校教員，保護者も参加していることから，進学相談コーナーを設け，進学・入学試験に関する相談を行っている。平成 25 年度は，生徒 173 名，中学校教員１名，保護者 100 名，合計 274 名の参加があった（資料４－１－①－12）。

また，秋田県内の高等学校に対しては，高等学校主催の学校説明会において学校紹介を行っている。平成 25 年度は，１校の高等学校にて学校紹介ならびに入学者に求める学生像および入学者選抜方法等の周知を行った。

その他，本校と連携協定を結んでいる秋田銀行の全支店に学校案内パンフレット等を配置し，教育活動の周知をしている。

専攻科課程への入学者選抜

アドミッション・ポリシーは，専攻科学生募集要項（資料４－１－①－３），学校要覧，学校案内（中学生の皆さんへ），そして本校ホームページへの掲載により，広く社会に公表している。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，準学士課程（第１学年入学生，第４学年編入学生）および専攻科課程のアドミッション・ポリシーを明確に定め，各募集要項，学校要覧，学校案内，学生便覧ならびに本校ホームページにて公開している。教職員には，各募集要項等の配布などにより周知しており，教職員へのアンケート調査結果から概ね周知されていることを確認している。

アドミッション・ポリシーおよび入学者選抜方針は，要点を箇条書きにし，かつ，平易な表現にし，中学生にも理解しやすくしている。また，中学校および工業高等学校への募集要項・学校案内等の配布，直接中学校を訪問しての説明，進学説明会，学校説明会，キャンパスツアー，一日体験入学等での周知を通じて，将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で広く公表している。

以上のことから，教育の目的に沿ってアドミッション・ポリシーを明確に定め，学校の教職員に周知している。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形でわかりやすく公表している。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜では，準学士課程１年への入学者選抜および専攻科課程の入学者選抜を学力選抜と推薦選抜で，準学士課程４年への編入学生選抜を学力選抜で行っている。全ての入学者選抜は，入学者選抜委員会ならびに専攻科選抜委員会などが中心となって実施している。いずれの選抜方法においても本校の合格者判定方針（入学者受入方針，訪問調査時の確認資料）に従って合否の判定を行い，調査書，面接などによりアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。

準学士課程１年への入学者選抜

準学士課程１年への入学者選抜は，入学者選抜の合格者判定方針に基づき，推薦選抜と学力選抜で行っている。

＜推薦選抜＞

推薦選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，調査書，在籍学校長が作成した推薦書および本校が実施する作文，面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を募集定員の 50%程度選抜している（資料４－２－①－１，２）。

本校の合格者判定方針は，調査書の成績（内申点）に対して評価順位付けを行い，さらに推薦書・作文・面接の評価点の結果を総合して，入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している（資料４－２－①－３）。

実際の入学者選抜では，これらの結果を入学者選抜（推薦）合否判定資料に取りまとめているが，実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

＜学力選抜＞

学力選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，国立高等専門学校の共通試験，調査書および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している（資料４－２－①－４，５）。

本校の合格者判定方針は，共通試験による英語・数学・国語・理科の学力点と調査書の成績（内申点），面接の評価点の結果から，入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している（資料４－２－①－６）。なお，採点方法は高等専門学校機構の定めた手順により行っている。

実際の入学者選抜では，これらの結果を入学者選抜（学力検査）合否判定資料に取りまとめているが，実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

準学士課程４年への入学者選抜

準学士課程４年への入学者選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，学力試験，調査書の成績（内申点）および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。

学力検査は，数学，英語，各学科の専門科目の３教科で実施している。また，物質工学科においては，普通高等学校の生徒も編入学の対象としており，「数学，英語，専門科目」または「数学，英語，理科（物理・化学）」のいずれかを選択できるようにしている（資料４－２－①－７）。学力検査の成績，調査書の成績（内申点），面接の評価点の結果から，入学者選抜

委員会に諮り，校長が合否を決定している（資料４－２－①－８）。

実際の入学者選抜では，これらの結果を編入学生学力検査選抜合否判定資料に取りまとめているが，実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

専攻科課程の入学者選抜

専攻科課程への入学者選抜は，推薦選抜と学力選抜，社会人特別選抜を実施している。

推薦選抜は，調査書，本校以外の在籍者は在籍学校長が作成した推薦書あるいは本校の在籍者は学科長が作成した推薦書および本校が実施する口頭試問と面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している（資料４－２－①－９）。学力選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，学力検査，調査書および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している（資料４－２－①－10）。社会人特別選抜は，調査書，所属の長が作成した推薦書および本校が実施する口頭試問と面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している（資料４－２－①－11）。これらの結果から，専攻科入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している（資料４－２－①－12～14）。

実際の入学者選抜では，これらの結果を合格者選考資料に取りまとめているが，実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

（分析結果とその根拠理由）

入学者選抜は，入学者選抜委員会ならびに専攻科入学者選抜委員会などが中心となって適切に実施している。また，準学士課程１年への入学者選抜および専攻科課程の入学者選抜を学力選抜と推薦選抜により，準学士課程４年への編入学生選抜を学力選抜により入学者を決定している。準学士課程１年の推薦選抜では，調査書の成績（内申点），推薦書・作文・面接において，アドミッション・ポリシーに適合した学生であることを確認している。また，準学士課程１年ならびに準学士課程４年の学力選抜では，調査書の成績（内申点），面接において，アドミッション・ポリシーに適合した学生であることを確認している。

専攻科課程では，調査書，学力検査（面接時の口頭試問を含む）と面接時にアドミッション・ポリシーに適合した学生であることを確認している。

以上のことから，いずれの選抜方法においても本校の合格者判定方針（入学者受入方針）に従って合否の判定を行い，調査書，面接などによりアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っており，適切に実施していると判断される。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れと改善は，入学者選抜委員会（資料４－２－②－１）ならびに専攻科入学者選抜委員会（資料４－２－②－２）が行っている。

入学者選抜委員会では，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているか

検証するため，入学者選抜方法の見直しを継続して取り組んでいる。準学士課程では，推薦入学者の追跡調査を行い，本科２年から５年までの４学年において，推薦選抜により入学してきた学生は，学力選抜により入学してきた学生より，留年率が低い状況であった。実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。この検証結果を踏まえて，平成20年度からは推薦選抜の枠数を募集人員の40%から50%程度とし，さらに平成21年度からは各中学校への推薦枠提示の廃止などについて改善を行った（資料４－２－②－３）。また，学力選抜における面接について検証しており，平成24年度から面接の評価方法の改善を行った（資料４－２－②－４）。さらに，推薦基準の見直しの検討，推薦選抜と学力選抜に加えて体験型入試方式の導入の検討を行うなど，改善に取り組んでいる（資料４－２－②－５）。専攻科課程では，学校長推薦による選抜における推薦基準の見直しおよび学力検査による選抜におけるTOEICスコアによる英語科目の試験免除について検討を行うなど，改善に取り組んでいる（資料４－２－②－６）。

（分析結果とその根拠理由）

これまで準学士課程推薦入試では，各中学校への推薦枠提示の廃止などについて改善を重ね，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学者の追跡調査を行い検証しており，入学者選抜の改善に役立てている。

観点４－３－①：　実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，過去５年間に実入学者数が，各学科の定員40名に対して最大５人上回り，定員の約1.1倍となった年度があるが，下回ったことはない（資料４－３－①－１）。入学者選抜委員会では，入学者選抜試験実施後，受験者数と倍率などを集計し，入学定員と合格者数などの分析を継続的に行っている。合格者で入学辞退する者が例年ほとんどいない。

専攻科課程では，過去5年間に実入学者が，定員16名に対して29名，29名，28名，22名，20名となっており，定員の約1.8倍となった年度があるものの，下回る状況にはなっていない。入学定員をオーバーしても，専攻科担当教員が指導できる状況にあり問題はない。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，専攻科課程どちらも実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は下回る状況にはなっていない。準学士課程では，過去５年間に実入学者数が定員の 1.1 倍となった年度があるが，定員を下回ったことはない。また，専攻科課程では，過去５年間に実入学者数が定員を超える状況であり，定員の 1.8 倍となった年度があるが，十分な教育指導体制をとっており，指導時間の確保ができている。今後，専攻科志望学生の増加が予想されることから，入学者選抜委員会ならびに総合企画室では，準学士課程については実入学者数の適正化，専攻科課程では入学定員の上限の議論を行い，入学定員と実入学者数との関係の適正化を図っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，入学者の追跡調査を行い，調査結果を入学者選抜の改善に役立てている。

（改善を要する点）

より詳細な追跡調査を行うなど，さらに入学者受け入れ方法の改善を行う必要がある。

（３）基準４の自己評価の概要

入学者選抜については，準学士課程では推薦選抜，学力選抜が実施されており，本校の合格者判定方針（入学者受入方針）に従って合否の判定がなされている。推薦選抜においては，理工系学生の基礎となる数学，理科の成績が優秀であることを推薦条件としており，アドミッション・ポリシーに沿って，適切な学生の受け入れ方法を採用している。推薦選抜，学力選抜いずれにおいても，本校の求める学生の受け入れを目的に，面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。また，募集要項に従った入学者選抜を適切に実施している。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学者の追跡調査を行い，入学者選抜の改善に役立てている。

専攻科課程では，準学士課程と同様に推薦選抜および学力選抜だけでなく，社会人特別選抜を行っており，広く門戸を開放している。また，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行い，本校の求める学生の受け入れに努めている。

入学者数に関しては，準学士課程は適正な人数となっており問題はない。専攻科課程は定員を超える状況になっているが，十分な教員組織で対応ができている。